

留学生交流支援制度(短期派遣)事例報告会

名古屋大学「国際農学研修」

—カンボジアおよびタイとの学生交流プログラム—



名古屋大学
大学院生命農学研究科
川北 一人

2014年3月7日

- 研修の背景
- 研修の目的
- 研修の実施状況
- 今後の検討課題

海外実地研修



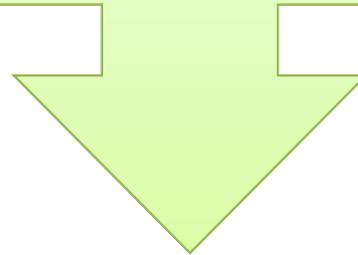
海外学生受入研修



研修の背景

名古屋大学農学部教育理念：

「世界、とりわけアジア諸国との学術および教育の交流を通して、『生命農学』と農業・生物産業の道を拓く人材を養成」



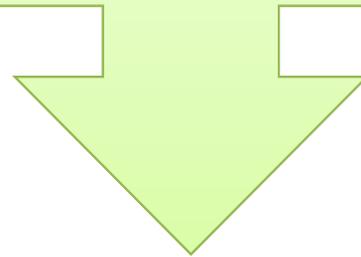
平成18年度：

3学科（生物環境科学科、資源生物科学科、応用生命科学科）体制への改編

→ 教育プログラムおよびカリキュラムの構築

研修の目的

農業現場に対する広いバックグラウンドと国際的な視野を持って行動し、社会に貢献できる人材育成のため、学部3年生の若い頭脳に対して現代世界における農業の問題点を深く感じさせる



日本で行われている最先端農業と東南アジアにおける先端あるいは発展途上の農業を現地で実際に体験する機会を与える

研修先の設定

海外実地研修(1単位+2単位)

カンボジア

- 名古屋大学大学院生命農学研究科とカンボジア王立農業大学 (RUA) との間: 2008年に学術交流協定
- 名古屋大学農学国際教育協力研究センターとRUAとの間: 2000年より教育システム確立のための協力・共同研究や、農産物加工品の開発・品質向上の実践を通しての交流実績

タイ

- 名古屋大学とカセサート大学との間: 1981年に学術交流協定

海外学生受入研修(2単位)

研修の特徴

- 1) タイ・カンボジア・日本3カ国の合同研修：
タイ・カセサート大学 (KU) 学生、カンボジア王立農業大学 (RUA) 学生、名古屋大学学生を対象
- 2) 学生の主体的研修とするために、グループワークを実施：
名古屋大学学生3名 + KUまたはRUA3名で1グループを編成
- 3) 農村地域での農業生産の実相を学ぶため、聞き取り調査と観察の併用
- 4) グループごとのテーマを設定：コメ生産、畜産、食品、灌漑・水管理など
- 5) グループごとの成果発表（英語）
- 6) 各大学での単位認定：事前研修、事後研修、レポート
- 7) ティーチングアシスタント (TA) の参加：
3年次に参加経験のある大学院生から選抜

2008 (平成20) 年度 農学部 海外実地研修 実施状況

海外実地研修(派遣)		
派遣期間	2009年1月19日-1月25日(7日間)	
派遣国・大学	カンボジア・RUA	
RUA	学部学生	3年生5名
	教職員	
名古屋大学	学部学生	3年生5名
	大学院学生	0名
	教職員	6名



2009 (平成21) 年度 農学部 海外実地研修・海外学生受入研修 実施状況

海外学生受入研修		海外実地研修(派遣)		
受入期間		派遣期間		2009年11月19日～11月26日 (8日間)
受入国・大学		派遣国・大学		カンボジア・RUA
	学部学生	RUA	学部学生	3年生10名
	教職員		教職員	
名古屋大学	学部学生	名古屋大学	学部学生	3年生11名
	大学院学生		大学院学生	―――
	教職員		教職員	6名

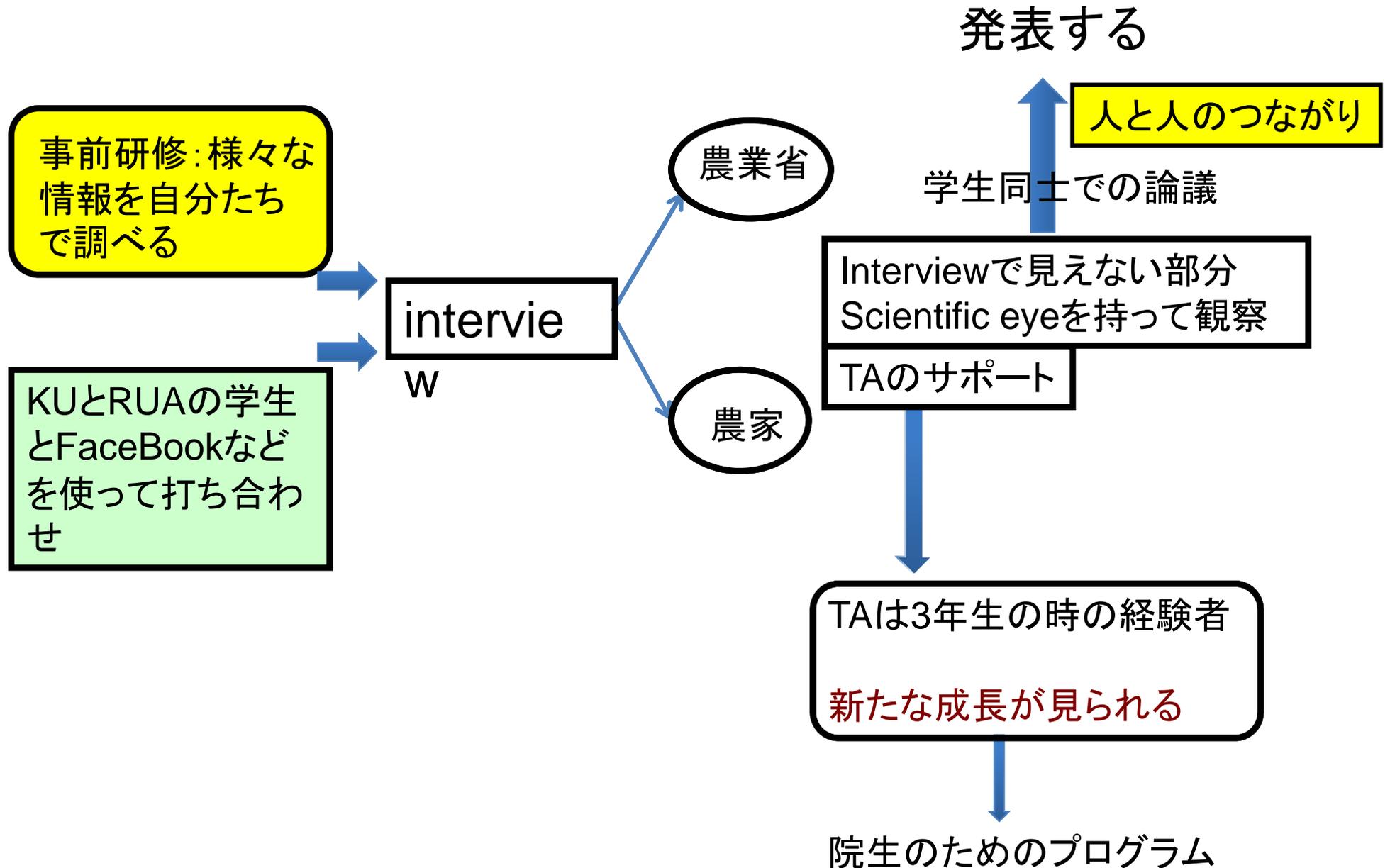
2010 (平成22) 年度 農学部 海外実地研修・海外学生受入研修 実施状況

海外学生受入研修			海外実地研修(派遣)		
受入期間			派遣期間		
			2010年11月25日～12月5日 (11日間)		
受入国・大学			派遣国・大学		
			タイ:KU、カンボジア:RUA		
KU	学部学生		KU	学部学生	2～4年生6名
	教職員			教職員	
RUA	学部学生		RUA	学部学生	3年生21名
	教職員			教職員	
名古屋大学	学部学生		名古屋大学	学部学生	3年生21名
	大学院学生			大学院学生	TA 2名
	教職員			教職員	8名

2011 (平成23) 年度 農学部 海外実地研修・海外学生受入研修 実施状況

海外学生受入研修			海外実地研修(派遣)		
受入期間		2011年10月24日～ 11月2日(10日間)	派遣期間		2011年11月24日～12月4 日(11日間)
受入国・大学		タイ:KU	派遣国・大学		タイ:KU、カンボジア: RUA
			テーマ別グループ		名古屋大学4年生のみ3 テーマ(コメ生産、畜産、 アグロ産業)
KU	学部学生	2～4年生15名	KU	学部学生	2～4年生13名
	教職員	3名		教職員	11名
RUA	学部学生		RUA	学部学生	3年生24名
	教職員			教職員	
名古屋大学	学部学生	19名(3年生4名、4年 生15名)	名古屋大学	学部学生	36名(3年生24名、4年生 12名)
	大学院学生	TA 18名		大学院学生	TA 6名
	教職員	16名		教職員	11名

グループワーク



2012 (平成24) 年度 農学部 海外実地研修・海外学生受入研修 実施状況

海外学生受入研修			海外実地研修(派遣)		
受入期間	2013年3月16日～3月25日(10日間)		派遣期間	2012年11月20日～12月2日(13日間)	
受入国	タイ:KU、カンボジア:RUA		派遣国	タイ:KU、カンボジア:RUA	
テーマ別グループ	4テーマ (コメ生産、畜産、先端農業、灌漑)		テーマ別グループ	5テーマ (コメ生産、畜産、食品加工、灌漑など)	
KU	学部学生	2～5年生 20名	KU	学部学生	2～5年生 30名
	教職員	2名		教職員	10名
RUA	学部学生	3、4年生 4名	RUA	学部学生	3年生29名
	教職員	4名		教職員	10名
名古屋大学	学部学生	3年生21名	名古屋大学	学部学生	3年生29名
	大学院学生	TA 15名		大学院学生	11名(TA 10名、ALP 1名)
	教職員	18名		教職員	8名

2013 (平成25) 年度 農学部 海外実地研修・海外学生受入研修 実施状況

海外学生受入研修			海外実地研修(派遣)		
受入期間	2013年10月17日～10月25日(9日間)		派遣期間	2013年11月20日～12月1日(12日間)	
受入国	タイ:KU、カンボジア: RUA		派遣国	タイ:KU、カンボジア: RUA	
テーマ別グループ	3カ国共通5テーマ (コメ生産、園芸、畜産、食品加工、灌漑)		テーマ別グループ	3カ国共通5テーマ (コメ生産、園芸、畜産、食品加工、灌漑)	
KU	学部学生	2～5年生 20名	KU	学部学生	2～5年生 30名
	教職員	3名		教職員	10名
RUA	学部学生	3、4年生 8名	RUA	学部学生	3年生31名
	教職員	2名		教職員	10名
名古屋大学	学部学生	3年生26名	名古屋大学	学部学生	3年生27名
	大学院学生	TA 12名		大学院学生	TA 7名
	教職員	18名		教職員	7名

2013 (平成25) 年度 農学部 海外実地研修 日程

月日	スケジュール	宿泊先
11月20日(水)	8:30 中部国際空港に集合 11:00 名古屋発 TG645便(6時間45分) 15:45 バンコク着 KU-KPSキャンパスへ移動(バス)	KU International House
21日(木)	KU教員による講義とキャンパス見学 計画立案(G.W.) 歓迎会	同上
22日(金)	[A.M.] 5方面に分かれて移動(マイクロバス)、現地調査(G.W.) [P.M.] インタビューなど(G.W.)	現地ホテル
23日(土)	[A.M.] インタビューなど(G.W.) [P.M.] KU-KPSキャンパスへ移動(マイクロバス)、発表準備(G.W.)	KU International House
24日(日)	成果発表	同上
25日(月)	[P.M.] バンコクへ移動(バス) 18:25 バンコク発TG584便(1時間15分) 19:40 プノンペン着	Mittapheap Hotel
26日(火)	[A.M.] プノンペン中央市場見学(G.W.) [P.M.] RUA教員による講義、計画立案(G.W.)	同上
27日(水)	[A.M.] 5方面に分かれて移動(マイクロバス)、現地調査(G.W.) [P.M.] インタビューなど(G.W.)	現地ホテル
28日(木)	[A.M.] インタビューなど(G.W.) [P.M.] プノンペンへ移動(マイクロバス)、ホテルで発表準備(RUA学生と同宿)(G.W.)	Mittapheap Hotel
29日(金)	成果発表 懇親会	同上
30日(土)	Killing fieldなどの見学 20:40 プノンペン発 TG585便(1時間5分) 21:45 バンコク着	
12月1日(日)	0:05 バンコク発TG644便(5時間25分) 7:30 名古屋着 中部国際空港で解散	機中泊

2013 (平成25) 年度 農学部 海外学生受入研修 日程

月日	スケジュール	宿泊先
10月16日(水)	【RUA】 20:25 プノンペン発 TG585便 21:30 バンコク着	
17日(木)	【RUA】 0:05 バンコク発 TG644便 8:00 中部国際空港着 [P.M.] 学内ツアー	名古屋大学宿泊施設
	【KU】 8:15 バンコク発 TG646便 16:10 中部国際空港着	
18日(金)	研究室実習(9研究室)	同上
19日(土)	9:30 名古屋大学教員による講義(12講) [P.M.] 計画立案(G.W.)	同上
20日(日)	自由行動(各グループで)	同上
21日(月)	グループでの現地調査 (5テーマ、2班ずつ)	現地宿泊
22日(火)	グループでの現地調査	現地宿泊
23日(水)	グループでの現地調査 [P.M.] 発表準備(G.W.)	名古屋大学宿泊施設
24日(木)	9:30 成果発表(シンポジオン会議室) 18:00 懇親会(レストラン花の木)	同上
25日(金)	11:00 中部国際空港発TG645便 15:00 バンコク着	
	【RUA】18:15 バンコク発TG584便 19:25 プノンペン着	

「海外実地研修」事前(事後)アンケート

- 海外実地研修に何を望んで参加しようと思いますか？
(海外実地研修に参加することによって、どのような成果が得られましたか？)
- タイ、カンボジア、日本というそれぞれの国に対する印象を述べてください。
- 日本および世界の食料・農業問題についてどう思いますか？
- 農学を勉強する意味について自分の考え方を書いてください。
- 自分の進路や将来やりたい仕事についてどう考えていますか？

2011年度3年生事後アンケート

研修に行く前、私は「タイやカンボジアは日本に比べ農業の機械化が進んでいなく、食料の衛生面も悪い。私たちのほうが恵まれている。」と、心の底で思っていました。

実際タイ・カンボジア行ってみても、機械化はされていない、食料も衛生的にいいとは言えない、そんな状況でした。しかし、人はいつも笑顔で、いきなり来た見ず知らずの私たちにととても親切にしてくれました。どの農家に行っても笑顔があふれていて、私は今までの考えが間違っていたことに気づきました。人が幸せになるためには、物質的なことは関係ありません。今、世界の発展途上国で起こっている問題を解決するために大事なことは、農家の人の生活をすべて変えて、先進国のようにすることではなく、今の生活を大事にしつつ、彼らが困っていることを手助けすることです。世界の農業問題を解決するには、どんどん先進国の技術を伝えるべきだと考えていましたが、今回の実習で変わりました。彼らの幸せを保ちつつ、私たちがサポートすることが大事なんだと思います。

2011年度3年生事後アンケート

* タイとカンボジアの現状を見て、10年先、100年先でもいいので、どんなに狭い範囲でもいいので、本当に社会の役に立つものを見つけるのが農学の意味だと思った。

* 何となく、国際交流、途上国の現状を知ると言って日本を飛び出した私たちは、想像を超えるリアリティに直面しました。なぜなら、今回の研修はただ見るだけではなかったからです。現地の学生とチームを組んで、現地の農村、市場に足を運び、ゼロから作り上げた自分たちの調査項目を用いて、現状のカンボジアから問題、改善点を探し出そうというプロセスを踏んだのです。

* 今回の海外研修のような刺激的な体験を通して、僕ら自身が周りの環境、世界をどう捉えるか、という視点を変えることができるという意味です。

* 自分の周りにあるすべてのものの捉え方が変われば、それは自分にとっての世界を変えることができたということになると思います。その先には、今まで見えなかった問題点、価値提供、生き方、個性などが生まれていくと思います。またそれらが各個人の活躍するフィールドで発揮されていくと僕は確信しています。

今後の検討課題

持続的実施体制

- ① それぞれの大学の教職員に対し、プログラムに対する積極的な参加を促すこと
- ② 参加教職員がプログラムの教育的意義と成果を実感すること
- ③ 参加教職員の研究交流を基盤として持続的に意見交換できる人的ネットワークを構築すること
- ④ プログラムに対する共通理解を大学間で持ち、持続性のある研修基盤を整備すると同時に長期的に関わる教職員を育成すること
- ⑤ 海外拠点を構築し、研究・教育の基盤を整備すること

研修の教育効果の検証